$Na_2O-MgO-BO_{1.5}$ 系ガラスの分子動力学シミュレーション ○宮本 大輔¹、澤口 直哉¹、河内 邦夫¹、佐々木 眞¹、河村 雄行² ¹室蘭工業大学大学院 工学研究科(〒050-8585 室蘭市水元町 27 番 1 号) ² 岡山大学大学院 環境学研究科(〒700-8530 岡山市北区津島中 3-1-1)

【緒言】原子力発電所から廃出される使用済核燃料のうち、高レベル放射性廃棄物は、 ガラス固化体として地下埋設することが検討されている。ガラス固化体には、熱的・ 化学的に安定であり、耐放射線性、中性子閉じ込め性があるホウケイ酸塩ガラスが 用いられる。しかし各種イオンを取り込んだガラスの分子構造や安定性に関しては 未だ不明なことが多い。当研究室では分子動力学(MD)法を用い、1 価~3 価の各種 陽イオンを含む、ホウケイ酸塩ガラス、ホウ酸塩ガラスについて構造解析を行ってきた。 本研究では、1 価の Na⁺と 2 価の Mg²⁺を含む Na₂O-MgO-BO₁₅ 系ガラスについて構造解析を 行った。

【方法】MD シミュレーションのソフトウェアに MXDORTO¹⁾を用い、原子間相互作用には 二体間ポテンシャル関数(1)に三体間ポテンシャル関数(2)²⁾を追加したモデルを用いた。 粒子数約 5000、圧力 0.1 MPa 一定とし、温度は 1800 K の融体状態から 300 K のガラス 状態まで 300 K ずつ温度を下げシミュレーションを行った。 $(1-y){x Mg0}$ (1-x)Na₂O} - yBO₁₅(x=0.1~0.9, y=0.8)組成のガラスについて、ガラス転移温度、 Bの配位数などについて解析を行った。

$$U_{ij}(r_{ij}) = \frac{z_{i}z_{j}e^{2}}{r_{ij}} + f_{0}(b_{i} + b_{j}) \exp\left(\frac{a_{i} + a_{j} - r_{ij}}{b_{i} + b_{j}}\right) - \frac{c_{i}c_{j}}{r_{ij}^{6}} + D_{\mathbf{l}ij} \exp\left(-\beta_{\mathbf{l}ij}r_{ij}\right) + D_{2ij} \exp\left(-\beta_{2ij}r_{ij}\right)$$

$$U_{jij}(\theta_{jij}) = f_{k} \left\{ \frac{1}{\exp\left[d(\theta_{jij} - \theta_{0})\right] + 1} \right\} \times \sqrt{k_{1} \cdot k_{2}} , \quad k_{1,2} = \frac{1}{\exp\left[g_{r}(r_{ij(1,2)} - r_{m})\right] + 1}$$
(2)

【結果と考察】密度の温度変化の屈曲点から 求めたガラス転移温度はxの増加にともない 上昇した。4配位のBはxの増加にともない 減少し、3配位のBは増加した。同時に 非架橋酸素(NBO)は増加していたことから、 Na¹⁺よりも Mg²⁺の方が B-0 結合を解離させる 傾向が強いと考えられる。Fig.1に300Kに おける Na₂O-BO_{1.5} 系と MgO-BO_{1.5} 系の混合 エンタルピーを示す。混合エンタルピーの 値はすべての組成において負となり、この MD シミュレーションにおいて Na,0-BO,5系と MgO-BO, 系は熱力学的に均質に混合する傾 向にあることを示唆していると考えられる。

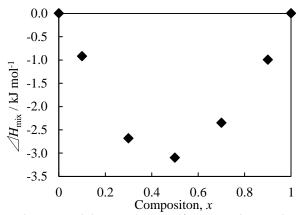


Fig. 1. Mixing enthalpy of $(1-y)\{x \text{ MgO} - (1-y)\}$ $(1-x)Na_2O$ - y BO_{1.5}(y = 0.8) glass system at 300 K.

【参考文献】

- 1) K. Kawamura, MXDORTO, Japan Chemistry Program Exchange, #29.
- 2) K. Yamaguchi, et al., 5th Pac Rim Conf. Rheology, (2010) Aug2-p-44.
- 3) W. H. Zachariasen, J. Am. Chem. Soc., 54, (1932), 3841-3851.